

# 大昔の中央区のすがた

中央区は、江戸時代に江戸湊ができたことで水運が発達し、その歴史が今につながっている。けれども、徳川家康が江戸に幕府を開く以前の中央区のようすは、あまりよくわかっていない。

あれえ、中央区がない。

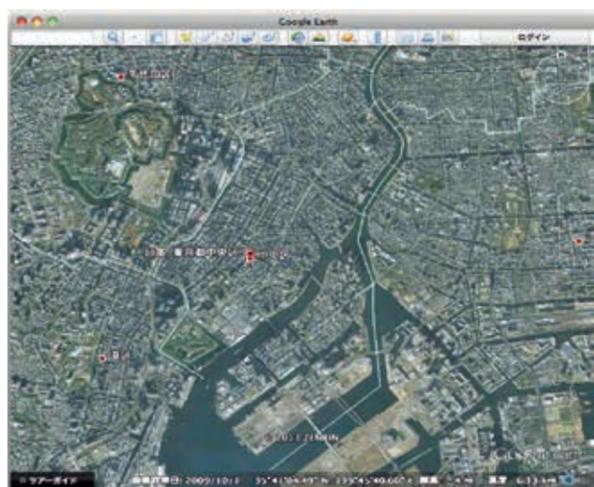


## <東京都心の大半が海だった>

大昔の地球は大地の変動や気候の変化などによって、海面が上がったり下がったりしていて、1万年くらい前は東京都心の大半は海だった。中央区の辺りも浅い海で、長い年月をかけて海が後退して少しずつ干潟や湿地になり、陸地ができたと考えられる。江戸時代以降は埋め立てがくりかえし行われ、今の中央区のすがたになる(→p.143)。



1万年くらい前の中央区の辺り(イメージ)



現在の中央区とその周辺 ©Google

区内の大部分は江戸時代以降に埋め立てられてきたんだって。



## ナウマンゾウが見つかった!



1976(昭和51)年2月、都営新宿線の地下鉄工事をしていたとき、浜町駅近くでナウマンゾウの化石が3頭分も見つかった。区内では、1933(昭和8)年の日本銀行の工事でもナウマンゾウの牙や歯の化石が見ついている。今は絶滅してしまったこのゾウは、1万年くらい前までは東京にもいたといわれている。

★はナウマンゾウの化石が見つかった場所。



### ナウマンゾウ

30万~1万年くらい前まで日本全国にいたゾウ。肩までの高さは2.5~3mくらいで、草原や木がまばらな林にすんでいた。

東京にゾウがいたなんてすごいぞう。



## 武蔵国の江戸

645年にはじまった大化の改新という政治改革のころから、今の東京都、埼玉県や神奈川県の一部は武蔵国とよばれていた。平安時代の後半には、日比谷入江(現在の新橋から日比谷公園、大手町一带→p.17)の周りが江戸とよばれるようになったといわれている。「江」は川や入江、「戸」は入口という意味。



赤く囲ったところが武蔵国。21(のちに22)の郡(こおり)があり、そのなかの豊嶋郡の一部が江戸とよばれた。

## 武士の時代がはじまった

平安時代の中ごろまでは、京都の朝廷(天皇や貴族)が国を治め、貴族が政治を行っていた。しかし、貴族に仕えて警備を行っていた武士がしだいに力をもつようになって、江戸時代の終わりまで続く長い武士の時代が幕を明けた。



平将門の乱 平安時代の武士、平将門が起こした戦い(935~940年)は、武士が起こした最初の大规模な反乱だといわれている。この絵は将門の館に下野国(現・栃木県)の武士、藤原秀郷たちが攻めこんでいるところ。《倭藤太絵巻》



## 最初の江戸城ができた

江戸城といえば江戸時代に徳川家がつくった城として知られているが、実はそれ以前にすでに城が建てられていた。最初の江戸城を建てたのは、室町時代の武将・太田道灌で、1457年に中城、子城、外城と5つの門をもつ城を築いた。道灌はこの江戸城を中心に関東一円で活躍した。



《長祿江戸図》の一部。長祿年間(1457~1460)に太田道灌が江戸城を築いたころのようすをえがいたとされる。

## 平安時代の関東を制した武将

### 平将門(?~940)

平安時代の下総国(現・千葉県)の武士で、京都の貴族に仕えていたが、平氏一族の相続争いをきっかけに、国への反乱を起こした(平将門の乱)。関東を治めるほど力をつけたが、藤原秀郷や平貞盛らの武士によって滅ぼされた。日本橋兜町には、将門の兜がまつられたという言い伝えが残る兜神社がある。



## 「江戸」を名乗った武将

### 江戸重長

平安時代後期から鎌倉時代初期の武将。祖先は秩父(現・埼玉県)の武士で、父親の重継が秩父から江戸に出て「江戸」という姓を名乗るようになった。重長は現在の千代田区の辺りを中心に、強い力をもっていた。

## 江戸の町の基礎をつくった

### 太田道灌(1432~1486)

相模国(現・神奈川県)の生まれ。室町幕府の将軍の補佐役であり、関東を支配した扇谷上杉家の家老で、戦がじょうずな武将として知られた。江戸城を築いたのは25歳のころ。たくさんの手がらを立てたが、最後は道灌の力をおそれた主君(主人)の扇谷上杉定正に殺されてしまった。

